

……栗橋地区の史跡……

ア 橋野鉄鉱山（橋野高炉跡）

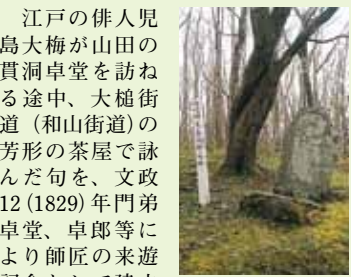
【国指定史跡・昭和32年6月3日指定】



安政5(1858)年から翌6年にかけ、大島高任によって建設され、南部藩が経営した洋式高炉で、わが国近代鉄鉱業発達史上貴重な遺跡です。平成27年「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されました。

イ 児島大梅の句碑

【市指定文化財・昭和53年11月28日指定】



江戸の俳人児島大梅が山田の貫洞卓堂を訪ねる途中、大槌街道（和山街道）の芳形の茶屋で詠んだ句を、文政12(1829)年門弟卓堂、卓郎等により師匠の来遊記念として建立されたもので、釜石で最も古い句碑です。

ウ 栗林銭座跡

【県指定史跡・昭和62年3月6日指定】



南部藩が砂子田源六の進言により、外川目（大迫町）の分座として慶応3(1867)年5月に建てたものです。高炉式で動力は水車を用い、20ヵ所の型場を備え明治元年に生産を開始しましたが、明治2(1868)年政府から銭座禁止の命令を受け休山しました。

エ 牧庵鞭牛隠居屋敷跡

【市指定文化財・平成元年4月27日指定】



鞭牛和尚は宝暦5(1755)年、46歳で林宗寺6世住職を辞して隠居し、人々の生活の障害を取り除くことに生涯を捧げました。道路の開削や改修、架橋などの延長は400kmにも及び、この屋敷跡は鞭牛が道づくりを発願し、そして終焉した地です。

オ 和山シナの木

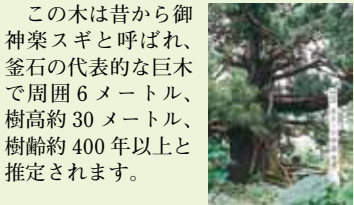
【市指定文化財・昭和44年8月22日指定】



シナノキは有用落葉樹で、この木は周囲約5メートル、樹高約10メートル、樹齢は400年以上と推定され、シナノキとしては県内一の巨木です。

キ 古里の御神楽スギ

【市指定文化財・昭和44年8月22日指定】



ク 明神かつら

【市指定文化財・昭和48年2月27日指定】



この明神カツラは、古くから神木としてまつられてきました。カツラは側枝や不定芽の発育が旺盛で、この木は中心樹幹の周囲から多数の新条が萌発生育して「千本カツラ」になったものです。

中村・青ノ木

11 中村判官堂

義経北行伝説にまつわる史跡で、義経主従が八幡家に宿泊し、その礼として鉄扇などを置いていったと伝えられています。その後、ほこらを建てて義経をまつようになりました。



13 熊野神社

古くからの神社は明治2(1869)年3月に焼失し、同年9月本殿、拝殿、神楽殿を新改築しました。本殿には、橋野高炉跡にあった山神社の扁額が奉蔵されています。参道の右手段丘上には、代々の神官の墓碑が10基ほど並んでいます。



15 六黒見金山跡

明治21(1888)年に創業し、大正8(1919)年休業、昭和10(1935)年再び日本鉱業株式会社の経営により太平洋戦争終戦時まで続けられたようですが、市誌、その他の資料にも詳細は記述されていません。

12 林宗寺

林宗寺は、学制公布により明治10(1877)年に橋野村を学区に寺院の一部を借用して小学校が置かれたところ。明治14(1881)年、能舟木集落より出火し、暴風のため山門を残して焼失しました。



14 片葉(羽)山

片葉山は北の雄岳(写真右・1313m)と南の雌岳の総称です。釜石では五葉山に次ぐ高峰で、雄岳頂上から360度のパノラマを楽しむことができます。頂上にあった大きな奉剣は、腐朽破損から救うため、現在は鉄の歴史館に保存されています。



16 和山街道(塩の道)

遠野から界木峠、和山を経て、大槌街道は、内陸に塩を運搬する街道で、塩の道とも言われました。馬の背に内陸から日用品、穀類を、沿岸からは塩のほか海産物を運び、それぞれの市で交換されました。



17 石垣

この地区は斜面が多いため、城のような石積みが見られます。石工は、明治時代に製鉄所を建設の際気仙地方から来たとされ、その後も橋野にとどまり30人以上いたと言われます。



釜石鉄山田中製鉄所 栗橋分工場跡

【市指定文化財・平成19年3月29日指定】



栗橋分工場は、明治25(1892)年に第七高炉として建設に着手、同27年、他がコークスであったのに対し唯一の木炭高炉として操業しましたが、大正10(1921)年、鉄鋼需要の減少などにより停止しました。

18 横内集落からの眺望



南に開けた眺望も横内集落の魅力。西(写真右側)の片葉山から東に伸び、岩倉山、弁天山、仙盤山に連なり、甲子地区の境を形成する900～1,300メートルの稜線を一望できます。

19 ウインドファーム

平成16年、釜石市を中心に遠野市、大槌町にまたがる丘陵地帯に建設された日本最大級のウインドファームです。43基の風車が、クリーンなエネルギーを供給しています。



栗林

1 三浦命助之碑

嘉永6(1853)年に起こった近世最大の百姓一揆の指導者、三浦命助の石碑で、生家の前に建てています。命助は、苛酷な税に苦しむ三陸沿岸の農・漁民を率いて藩政改革を唱え、一揆終了後は脱藩した罪で監禁され、文久4(1864)年2月10日46歳にして獄中で病死しました。



3 茅沢水車場

かつては茅葺の約20㎡の広さで、水車の直径は約3.5m、六連の杵を交互に動かす精巧なものでした。各種器械の発達に伴い、水車も稼働を止めていましたが、かつての5基の水車が上栗林の人々によって茅沢に集約され見事に復活しました。



5 布引の滝、白糸の滝

剣コマツ沢溪流の上流に二つの滝があり、左の滝を「布引の滝」、右の滝を「白糸の滝」と呼んでいます。両滝とも落差は約15メートル弱、巾は2メートル弱です。水量は布引の滝の方が多く、白糸の滝は、その名のとおり白糸を垂れたる如くです。



荻の洞・太田林・沢・早柗

6 つるぎ道路開削石碑群

牧庵鞭牛は、つるぎの嶮(難所)の尾根の岩を砕き、道路を開削しました。鞭牛が開削した道の下に、銘が刻まれた四基の石碑があり、そのうち一基は鞭牛の供養碑とも記念碑とも言われています。



8 ヨドマワリの滝

鶴住居川の支流の沢松川にはいくつもの滝があり、そのうちのひとつ。瀧澤神社奥の院の200メートル上流にあるこの滝は、四季を通じて流量が豊富で、ゴーという水の落ちる音とともに確認できます。



10 どんぐり広場

栗橋地区の活性化の拠点として「橋野どんぐり広場」があります。ここには、産地直売所やさわやかトイレのほか、親水公園、ふるさと伝承館があります。地域のシンボルとして、グラウンドワークで水車小屋も復元されました。



2 千手布引観音堂

昔は、人馬の通行も容易でない剣沢の中腹、布引の滝と白糸の滝との合流地点にありました。いつ、誰によって勧請されたかは諸説があり、はっきりしません。昭和48年、腐朽破損が目立ってきたため、上栗林部落会や有志の人々が修復落度しました。



4 上栗林、板橋停留所前路傍の石碑群

県道から茅沢林道へ入る西側角に六基の石碑群があり、向って右端にある青面金剛の浮彫像碑は釜石でも珍しい碑で、台座には「見ざる」「言わざる」「聞かざる」の三猿の浮彫が彫られています。



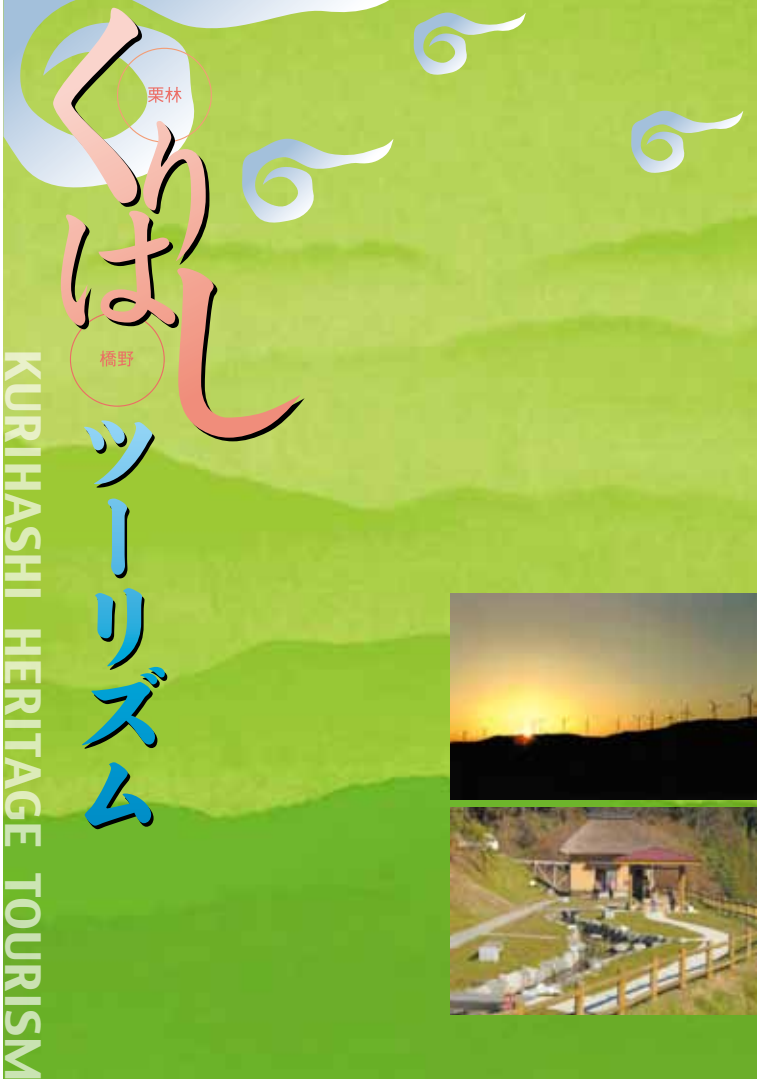
7 ママシタの滝

横内川と鶴住居川が交わる、どんぐり広場の東側にあります。水量が減っているものの、豪快に流れ落ちる様を観察できます。名前の由来は、崖(ま)の下にあるためとされています。



9 古里嘉惣治・小屋野十三郎碑

地頭のむごい取り立てにより、極度に苦しめられていた村人を見るに見兼ねた橋野村の肝いり古里嘉惣治と小屋野十三郎が延宝2(1674)年南部藩主に直訴し、村人は救われましたが、2人は荻の洞で処刑されました。昭和39年、処刑地の近くに顕彰碑が建てられました。



栗橋地区の成り立ち

栗橋地区は、江戸時代から海岸部と遠野、内陸部を結ぶ交易の中継的な要衝でした。

橋野は古くから農業と夫伝馬(旅行する役人に対して人夫と伝馬を供出することを義務付けた制度で、南部藩が施行した)の役をもって、明治、大正は鉄づくりによって栄えましたが、閉山とともに農林業によって発展してきました。

栗林は、鍛冶を生業として藩に上納したり、漁業に使うつり針を作って生計を立てたり、内陸部との交易の使いとして駄付けを本業としていた人も多くいました。明治末期から大正までは養蚕が盛んで、二つの製糸工場が稼働していましたが、時代の変せんとともに農林業により発展してきました。

橋野、栗林は独立した村でしたが、明治22年の町村制施行により合併して栗橋村となりました。昭和30年4月には釜石市と合併し、町区分を橋野町、栗林町としています。栗橋地区生活応援センターは、栗橋村時代に役場があった所です。

この地域で特筆すべきは、嘉永6年に起きた三閉伊通(野田通、宮古通、大槌通)の農漁民による一揆です。栗林村からは三浦命助以下80余人、橋野村からは勘左衛門以下130余人が参加しました(栗橋小史資料編)。この一揆は、幕末期における最大の一揆として多くの書に紹介されています。

発行 栗橋地区まちづくり会議

〒026-0411 岩手県釜石市橋野町34-16-2 電話 0193-57-2111

問合せ 一般社団法人 釜石観光物産協会

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町22-4 電話 0193-22-5835



鵜住居川 流域マップ



栗橋地区の 近代化遺産

①鷺ノ滝 ②栗橋 ③橋野の各発電所

橋野町には鷺ノ滝発電所と栗橋発電所、橋野発電所の三つの発電所があります。釜石の発電事業は、大正2(1913)年釜石電灯(株)が開業したことに始まり、その後需要が増えたため同7(1918)年に鷺ノ滝と栗橋発電所を起工、鷺ノ滝は同11(1922)年に、栗橋は同12(1923)年に竣工しました。橋野発電所は盛岡電灯(株)が昭和4(1929)年に建設した当時最新鋭の自動制御発電所です。



橋野発電所

④川崎家(神ノ前)住宅

栗林町は江戸から明治にかけて鍛冶屋が多くあり、針金(釣り針)や刃物などを作っていました。鍛冶屋の川崎家は江戸時代には肝煎、明治には庄屋を務めました。住宅は安政元(1854)年に栗林村の木工丑松によって建てられ、現在は瓦に葺き替えられています。奥座敷には床の間があり、襖の書と掛け軸は観音寺十三世億岳堂鳳山が書いたもので、奥座敷には座敷便所が造り付けられています。



⑤和田家住宅

和田家は、金掘職人として移り住み、金山開発で財をなしたと言われ、盛岡藩時代に和田周作の長男政吉が明治20(1887)年に建築し、江戸時代の屋敷の間取りを再現したものです。母屋は桁行14間1尺、梁間6間4尺で北側には井戸、台所の南側には土間、その先に厩を設けた曲がり屋です。「あんど部屋」と呼ばれた見張り部屋や、賊などに襲われた際逃げるため、床の間の横から裏手へ通じる非常用通路があります。



⑥小笠原家(錦織)旧住宅

横内地区は、「塩の道」とも言われた大槌通りの要衝でした。小笠原家の住宅は、明治31(1898)年に13代小笠原善太郎が住宅棟、厩、蔵などを建てたもので、昭和23(1948)年に瓦に葺き替えた以外は当時のままです。錦織・小笠原家の初代、勘右衛門は約4百年前に横内に住んだとされ、釜石周辺の小笠原家の本家で、全てここから分家したと言われています。



⑦中館家住宅

中館家は、軍平が明治期に海産物と米穀類、後に酒造、養蚕さらには製糸生産を営み繁盛した商家で、明治36(1903)年の建物は、栗林村の木工棟梁川崎善治氏が建築しました。1階は桁行に廊地を取り入れ住まいと店を分け、2階は養蚕室が18畳間2室、12畳間5室あり、回り四面には装飾的で堅固な高欄間付き回廊が設けられています。2階三方のはね出しと贅沢な戸袋4基は、大正中頃、宮大工中館忠太郎氏の造作です。



栗橋地区の鉄の歴史

釜石鉱山田中製鉄所栗橋分工場(沢松鉱山)は田中製鉄所の主要工場で、鉄鉱石は高前や細越の鉱山から運搬しました。現在遺されている山神社と火薬庫跡前の道路はトロッコの軌道跡で、その側にはレンガの構造物も見られます。また、沢松川の向かいから排水路の跡も確認することができます。最盛期には年間3千トンの良質の木炭鉄を生産。職員、作業員450人のほか、炭焼き、鉄鉄の運搬などに多くの人が従事していました。



栗橋分工場から両石港までの鉄鉄を運搬したトラックは、復路は宮古方面で生産された木炭や米穀などを運びました。大正7(1918)年から運行され、県内では最も早い方だと言われています。

栗橋地区の民話

- ◆遠野物語(5) 山男と山女 (笛吹峠、界木峠)
- ◆遠野物語(32) 千晩ヶ嶽の白鹿 (仙磐山、片葉山、権現山)
- ◆遠野物語(37) 馬方と狼 (大槌街道)
- ◆遠野物語(41) 狼の群れ (権現山の山麓)
- ◆遠野物語(44) 狼の経立 (青ノ木の金坑)
- ◆遠野物語(67) 安倍貞任伝説 (貞任山)
- ◆遠野物語(93) 山男が告げた子の死 (笛吹峠)
- ◆遠野物語拾遺(1) 美しい3人姉妹 (古里、笛吹峠、和山峠、太田林)
- ◆遠野物語拾遺(2) 笛を吹きながら死んだ少年 (笛吹峠)
- ◆遠野物語拾遺(6) 土を喰った婆様 (太田林)
- ◆遠野物語拾遺(18) 実を結ばない小柿 (早柝)
- ◆遠野物語拾遺(19) 平家の高鍋 (早柝)
- ◆遠野物語拾遺(20) 大きな杉の木とせの木 (太田)
- ◆遠野物語拾遺(27) 盲神 (早柝)
- ◆遠野物語拾遺(32) 田村磨將軍の大蛇退治 (中村)
- ◆遠野物語拾遺(33) 鮫の参拝 (沢松)
- ◆遠野物語拾遺(38) 神の石船と隠里 (早柝)
- ◆遠野物語拾遺(39) 金山を見つけた女 (早柝、弁天山)
- ◆遠野物語拾遺(109) 山男にさらわれた女房 (仙磐山)
- ◆遠野物語拾遺(178) 馬と河童の証文 (沢松川の五郎兵衛淵)
- ◆遠野物語拾遺(180) 若い娘とヤマカガシ (横内)
- ◆遠野物語拾遺(207) 女に化けた古狐 (初神)
- ◆遠野物語拾遺(210) 大熊に投げ飛ばされた男 (片羽山の山麓)
- ◆遠野物語拾遺(212) 地震で倒れた木に弾き飛ばされた大熊 (場所不明)

栗橋地区は民話のふるさとです。柳田國男の『遠野物語』の中の栗橋地区に関する民話を集めました。遠野物語の世界を旅してみませんか。